

不登校・インターネット・ゲーミング依存・ 昼夜逆転を呈した思春期への 病棟内内観療法

医療法人耕仁会 札幌太田病院

○丹野万樹 大川直樹 時岡かおり 太田健介

2017年6月10日
第32回北海道内観療法懇話会

目的

- インターネット・ゲーミング依存(以下、ネット依存)の治療法の研究は少ない¹⁾
- 当院では、不登校、ネット依存、昼夜逆転を同時に呈した児童・思春期の入院患者に対し、病棟内内観療法(以下、内観)を実施している
- 内観を実施し、ネット依存・昼夜逆転・不登校の悪循環が改善し、再登校に至った3症例を紹介する

症 例 1

- 14歳男性
- 主訴：不登校、ネット依存、昼夜逆転
- 生育歴：幼少時、父母離婚。母が再婚し、異父弟がいる
- 現病歴：X-2年よりネット依存傾向。X年5月より、起床できず不登校傾向。パソコンを取り上げると、「返してくれないなら学校へ行かない」と訴え、X年12月、当院入院

症 例 2

- 17歳男性
- 主訴：不登校、ネット依存、昼夜逆転
- 生育歴：弟が不登校で当院入院歴有。父は単身赴任
- 現病歴：小学生時より、遅刻、忘れ物、宿題未提出などの問題があったが、X-1年より、夜中のゲームが原因で遅刻が増え、留年のおそれがあり、X年8月、当院入院

症 例 3

- 15歳女性
- 主訴：不登校、ネット依存、昼夜逆転
- 生育歴：X-5年、父母離婚。母・妹と同居
- 現病歴：教師との折り合い悪く、X-3年より不登校。X-2年、転校先での友人関係に悩み、再び不登校。X年3月より、無断でネットショッピングを繰り返す。携帯が壊れ、友人との連絡が取れなくなったことから気持ち落ち込み、進学した高校を不登校。同年5月、当院入院

内観による心理的变化 症例 1

- 第2病日より内観開始
- 第9病日(内観最終日):「パソコンを始めてから態度が悪くなり(反抗的態度の増加)、無気力になっていたと感じた。受験が終わるまで使わない」
- 第19病日: 家族内観で「内観を通して自分が依存症だと気づいた」「パソコン依存により愛や幸せを忘れていた」と述べる。
- 内観後、当院から登校可能となり継続。第49病日退院。退院2か月後、志望高校合格。

内観による心理的变化 症例 2

- 第1病日より内観開始
- 第5病日:「自分が楽しみたい、楽をしたいという気持ちを優先して生きてきた」
- 第7病日(内観最終日):「結果、信用・信頼を失った。その不満を行動で表わし、また信用を失った」
- 内観後、登校するも、遅刻する事も多く、当院よりの登校を継続。第134病日退院。退院3ヶ月後、志望大学合格

内観による心理的变化 症例 3

- 第2病日より内観開始
- 第6病日:「快樂のため、ネットで無断で買い物をした」
- 第8病日(内観最終日):「スマホと距離を保ち、母とルールを決める」
- 第8病日:家族内観で「不安が強く、ネットに逃げることで安心感を得ていた」と述べる
- 内観後、当院からの登校を続け、第23病日退院。退院後、登校継続

考察 1 入院生活

- 入院生活：ネットやゲームから離れ、規則正しい生活をおくることで、生活習慣が改善される
- ピア・サポート的にかかわり：同年代の入院者同士のかかわりの中で、治療・回復への動機づけが高まる

考察 2 内観

周囲からの支えへの気づき

ネット・ゲームの使用で周囲に迷惑をかけたことへの気づき



- ・反省と自制心の獲得
- ・正しい生き方への転換



ネット依存、昼夜逆転、不登校の悪循環の改善

結 語

- 入院治療及び内観により、ネット依存、昼夜逆転、不登校の悪循環改善につながったと考えられる。
- 内観は、ネット依存にも有効な治療法であることが示唆された。

文 献

1) 三原聡子, 北湯口孝, 樋口進: ネット依存の治療キャンプと地域対策, 精神医学59巻1号: 53-59, 2017